

申請分野	教育プログラムの名称	取組実施担当者
人社系	学生主導型の研究マネジメント力養成	法学研究科 法学政治学専攻 教授 古 矢 旬
取組の概要		
本プログラムは、従来より米国の法科大学院で広く展開されてきた学生によるロー・レビュー編集方式を応用し、大学院生、若手研究者の自律的かつ実践的研究推進能力の養成を図ることを目的とする。そこでまず、各年度毎に本学法学研究科、法科大学院、公共政策大学院所属の大学院生のうちから優秀者を競争的に選抜し、自律的な学生組織として「研究推進ボード」を編成する。同ボードは、国際的共同研究や学術誌編集の経験を持つ教員および外部専門家によって構成される「支援専門家ボード」の指導、助言を適宜求めつつ、以下のような研究活動を大学院生主体で展開する。すなわち、大学院生の中から広く研究プロジェクト案の提出を求め、発展可能性のあるプロジェクトを選抜し、その推進を助ける。により採択されたプロジェクトを通し、また「研究推進ボード」のイニシアティブにより、講演会、研究会、若手研究者同士の研究情報交換のためのワークショップ、討論会を計画、組織、実行する。とりわけ研究科内での共通性が高く、社会的重要性の顕著なテーマに関しては、学内外から、また国外からも先端的な研究者を招聘してシンポジウムを実施する。そしてこれら全ての研究活動を集約し、外部に発信するための活動として ニュースレター、論文集の編集に当たる。大学院生の学問研究の自律的能力の涵養のためにこの は、中心的意義を有するものである。これらの企画、論文の公募、応募論文の査読、採択の可否といった編集作業の全てを「研究推進ボード」が担当することになる。 このようなボードを通しての諸活動が、大学院生教育にとってもっとも肝要な個々の大学院生の研究水準の向上という目的に資することはいうまでもないが、のみならず大学院生自身による研究過程の自主的、自発的な管理、運営の能力（いわば「研究マネジメント力」）の改善をもたらすものと思われる。例えば、研究者個人や研究機関の年間を通しての綿密な行動計画やスケジュールの作成にはじまり、国内や海外の学術機関、研究者との交流のための通信、連絡、旅行の手配、企画書、報告書などといった事務文書の作成、印刷、配布にかかわる多くの手続き、会議進行の時間管理などの基礎的な実務を含み、学生がこれらの実務の実態を、自らが立てた企画を通して見聞し、場合によっては自ら実行することにより、将来個人研究を共同研究や国際研究へと展開してゆく際に不可欠の実務的能力を身につけることが期待される。「支援専門家ボード」は、こうした交流を指導、助言しつつ、単位制の教育活動として学生の自主的活動実績を外側から評価する役割を担う。それとともに「研究推進ボード」を、本研究科における大学院教育の中核を担う優れた研究主体として広く喧伝し、ボードの学術活動の展開を側面援助することが求められている。このように本プログラムは、本研究科が従来より多大の顧慮を払ってきた教育課題、すなわち大学院生の学問的孤立と「専門たこつば化」を避け、現代社会のニーズに応えるための国際的・学際的な「複眼的知」をもつ法学・政治学の若手研究者の養成をめざすものである。		
採択理由 （特に優れた点）		
研究大学院の再編に当たって、「学生主導型の研究マネジメント力の涵養」という目的を掲げ、院生に水準の高い論文を執筆させ、課程博士を増加するとの狙いは適切である。とくに研究主導型研究推進ボードの構想は、自立的な研究者養成に資する斬新で意欲的な計画として評価できる。		